

Start! New Water Life.

# swim 水夢

swim 水夢

Start! New Water Life.

【季刊誌・水夢】 Vol.25

● 2006年7月1日発行

● 発行 ヤマハ発動機株式会社プール事業部

## YAMAHA NEW STREAM

YAMAHA POOL 最新施設 & 製品

Kai・遊・パーク

水中運動核心論 ⑩

presented by 宮下充正

Relay Talk Vol.10

水夢人 金子正子

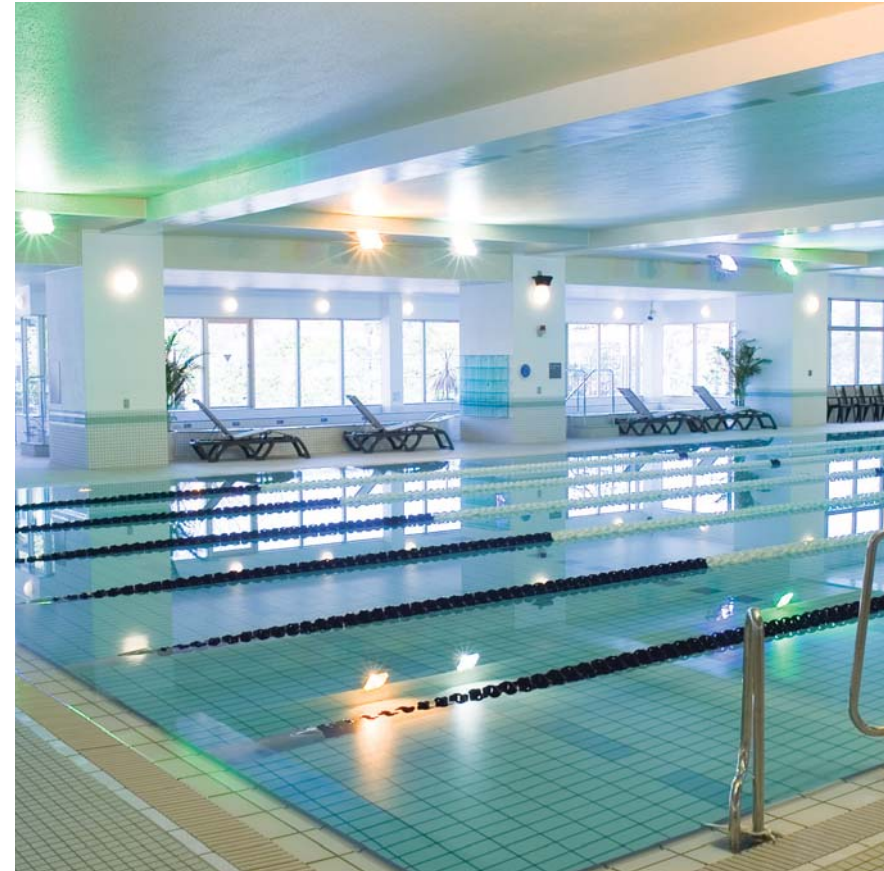


特集

プール運営の新潮流

パブリックビジネス最前線

尼崎スポーツの森



ティップネス二俣川 (神奈川県横浜市)

プール  
百景

シンクロする水と光

- 窓の輪郭をあいまいにするような
- 力強い陽射しの日
- 差し込んだ陽光と天井のスポットライトが
- 透き通った水面を映し鏡に
- プリズムのような鮮やかな情景を描く

### 営業所のご案内 プールのことならお気軽に・・・

ヤマハ発動機株式会社 プール事業部営業グループ TEL 053-594-6512  
〒431-0302 静岡県浜名郡新居町向島3380-67

北海道販売課 TEL 011-200-2381  
〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西2-9 オーク札幌ビル7F

東北営業所 TEL 022-301-7102  
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル5F

東京営業所 TEL 03-3454-2434  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィングビル3F

中部営業所 TEL 052-209-6676  
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-18-11 第18KTビル2F

関西営業所 TEL 06-6268-0520  
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F

中四国営業所 TEL 086-801-0156  
〒700-0024 岡山県岡山市駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル10F

九州営業所 TEL 092-472-7815  
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸築紫通ビル3F

<http://www.yamaha-motor.co.jp/product/pool/>



【季刊誌・水夢】 2006.7

Vol.25



# YAMAHA NEW STREAM

YAMAHA POOL最新施設&製品



## Kai・遊・パーク

山梨県甲斐市西八幡1896-2

■施設内容  
25m×6コース  
歩行用プール(約60m)  
子ども用プール(直径4m・水深50cm)  
リラクゼーションプール  
スパプール、マッサージベッド、フットマッサージ/他



館内には、屋内25mプール、1周60mの歩行用プール、リラクゼーションプール、子どもプール、トレーニングジムなどを完備。手前に公園の花や緑、遠くに富士山や八ヶ岳に見守られた、贅沢なウォーターライフを提供します。

フラットで広々としたデザイン、大きくとったガラスの窓から天井までを木材で構成し、木と陽光のやさしさに包まれた空間は、約3.1haの玉幡公園の自然豊かな景観にそのまま溶け込んでいます。

山梨県下第二の人口を誇る「甲斐市」は、平成16年9月1日、甲府盆地の中西部の敷島町、双葉町、竜王町が合併し、生まれた街です。「緑と活力あふれる生活快適都市」を目指すこの街のシンボル施設として、総合屋内プール「Kai・遊・パーク」が4月29日オープンしました。

日本一の霊峰と尾根に見守られた健康づくり

## C O N T E N T S

- 3 特集：プール運営の新潮流・パブリックビジネス最前線
- 5 特集：プール運営の新潮流・パブリックビジネス最前線  
対談：鈴木大地×橘俊光 兵庫県土整備部公園緑地課課長
- 7 特集：プール運営の新潮流・パブリックビジネス最前線  
尼崎スポーツの森
- 11 YAMAHA INFORMATION
- 13 水中運動核心論 Presented by 宮下充正
- 14 Relay Talk Vol.10 水夢人 金子 正子さん



# 「人」が集まるプールへ。



健康増進への関心が高まる現在、充実した設備を備えたスポーツ施設建設の動きは全国各地で加速している。しかし、施設の建設以上に大きな課題となるのは「施設をどのように活用するか」だ。施設は人々に利用されなければ価値は無い。施設に命を吹き込むのは、運営する人、そして利用する人だ。いかに人を集め、健康と交流を深め、地域と人々に貢献できる施設にするか。そのひとつの方法として近年注目を浴びているのが民間委託による施設の管理・運営である。急増するパブリックビジネスにおける最新のスポーツ健康増進施設の姿を通してプールの管理・運営について、考えてみたい。

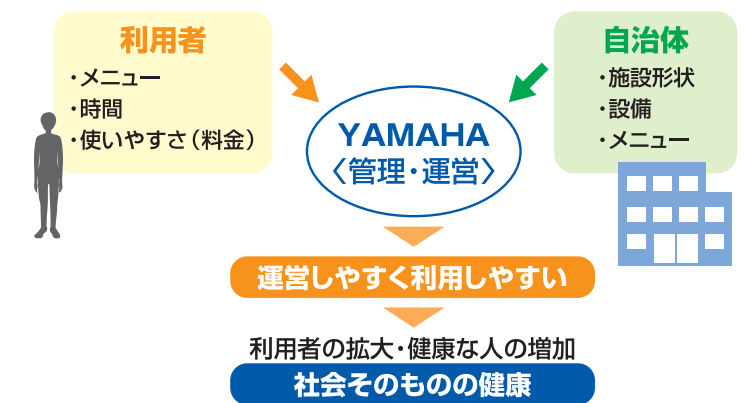


## ◆民間の活力を運営に活かす

健全で活気のある地域都市を創造するには、人々が生きがいを持ち、健康に生活していることが重要である。そのためにスポーツが果たす役割は大きい。市民の健康づくりと地域の活性化を図ろうとする自治体は、子どもから高齢者まで、誰もが自分のペースで楽しめる生涯スポーツ施設を理想とし、必然的にプール施設が注目されている。しかし、この施設が効果をあげるには、多くの人々に利用されることが大前提である。せつかく建設した立派な施設の利用率が低く、人々の生活になら効果を提供できず、ましてや維持管理や運営費用の面で財政的負担をかけることは、社会の活力向上を掲げた計画そのものを根底から崩す結果となってしまう。



掛川さんりーな (静岡)



こうしたリスク回避策として石を投じているのが「指定管理者制度」だ。90年代のイギリスで生まれたこの施策は、我が国では2003年の地方自治法改正に伴い、民間企業やNPO等によって運営することができるようになったことで一気にその普及が加速している(それまでは、公の施設の管理委託先が公的主体に限定されていた)。

多様化する住民ニーズへの対応、住民サービスの向上、経費の削減などに対して、民間の「運営」「経営」「監理」能力を活用し、迅速で有効かつ効率的な施設づくりができる民間への委託。当時のイギリス政府がこの制度を活用し、低迷する国内経済を再浮上させたように、わが国でも厳しい地方財政や、少子化、高齢化への有効策として大きな期待が寄せられている。

## ◆プール技術と水泳科学のノウハウを活かした独自の管理・運営事業。

ヤマハ発動機では、かねてより施設利用の向上を目指すには、プール施設というハード面だけでなく、プール利用の身体への有効性の正しい理解やプログラム、運営計画などソフトへの情報発信が必須であると考えていた。

その具体的活動のひとつが、1999年より毎年秋に全国各地で無料開催している「ヤマハスポーツ文化フォーラム」である。このフォーラムでは、プールのあり方、水泳や水中運動の効果と実践方法、社会への有効性、各世代における効果など、実にさまざまな提案を続けている。また、このフォーラムでの活動を通じてスポーツ科学、健康科学、医療費負担軽減、医療施設活用、アスリート育成、教育、指導など、さらに豊富なノウハウを蓄積した。その反面、進化するプールのハードとこれらソフトの融合をもっと提唱する独自のプールの活用策は、他の民間ではなかなか実現が難しいものでもあった。

ならば、自分たちでやるしかない。より良いプール施設を実現するために、ソフト面からも貢献したい。そう考えたのが、管理・運営事業に取り組みきつかなかった。指定管理者制度が施行され、時代の流れもようやく歩調を合わせることができた。そして現在、管理・運営事業に力を注ぎ、既に数多くのプール施設の運営に取り組んでいる。

## ◆優れたハードを有効に使える、ソフトの充実を。

プールの運営に求められるのは、各世代全ての住民の健康づくりのため、利用を促進させることだ。より多くの人が、より高い頻度で

利用するからこそ、「市民の健康でいきいきとした毎日」に貢献するといふプール施設本来の目的が達成できるからである。そのためには、少しでもみんなが利用しやすいよう営業時間やメニューを柔軟に捉え直す必要がある。公共施設にありがちな「9時から6時まで」の営業時間では、おのずと利用できる人も限られてしまう。

また、「経営」でも合理的な施設運営計画をたて、利益を出すことは、民間企業なら当たり前のことである。一方、公の施設であることを考えれば、たとえ採算がとれなくても、高齢者や障害者に配慮して施設を整え、彼らに適したプログラムを組むことも必要だろう。

公の施設ならではの利点と、民間だからこそそのノウハウや技術。その両方の良さを引き出す管理・運営のモデルケースとして、今回は兵庫県で尼崎の森中央緑地スポーツ健康増進施設整備事業で、同県初のPFI事業である尼崎スポーツの森」を取材した。

ヤマハ発動機の管理・運営事業への考えが、西日本最大級ともいわれるこのスポーツ施設にどう活用されているかを紹介したい。



調布市立調和小学校 (東京)



# 行政と民間の力を合わせ、自然と健康の回復を。

尼崎スポーツの森(尼崎市)橋 俊光(兵庫県土整備部まちづくり局公園緑地課 課長)×鈴木大地

尼崎の臨海地域南部に、100年の歳月をかけ、森と水と人が共生する環境創造のまちづくりを目指す「尼崎21世紀の森構想」。その中核施設として、県民の健康増進や水泳競技の振興等を図るため2006年5月に誕生したのが「尼崎スポーツの森」である。兵庫県で初めてPFI方式を用いて整備されたという本施設が担うべき役割と将来ビジョンについて、お話をうかがってみた。

## ◆尼崎の工業地に、広大な森を再生。



鈴木 尼崎の工業地帯に森を創るという壮大な構想に、まず驚かされました。  
橋 尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす緑豊かな自然環境を創出し、森と水と人が共生する環境創造のまちづくりをめざす「尼崎21世紀の森構想」を平成14年3月に兵庫県が策定しました。構想の対象面積は約1,000ha、21世紀を時間軸とした約100年にわたる長期的な大プロジェクトです。  
鈴木 21世紀は環境の世紀。日本の工業には頑張っ欲しいし、産業が発展するのはいいことです。が、これからはもっと自然の大切さを見直すべきだと思います。  
橋 昔は尼崎の海もきれいでした。ここに、瀬戸内の海のイメージをも二度取り戻したい。

## ◆幅広い施設を、幅広い人たちのために。

鈴木 「尼崎スポーツの森」は、壮大な構想の先陣を切る形でオープンしたわけですね。  
橋 そのです。「健康・文化」「自然とのふれあい」を基本に整備を行う「尼崎の森中央緑地」は、本構想の言わばリーディング・プロジェクト。その中核施設となるのが、「尼崎スポーツの森」です。  
鈴木 「尼崎スポーツの森」は、壮大な構想の先陣を切る形でオープンしたわけですね。  
橋 そのです。「健康・文化」「自然とのふれあい」を基本に整備を行う「尼崎の森中央緑地」は、本構想の言わばリーディング・プロジェクト。その中核施設となるのが、「尼崎スポーツの森」です。



鈴木大地

## ◆のじぎく兵庫国体の会場にもなる国際公認プール。

鈴木 豊かな自然環境の中で、スポーツを楽しむようになるのはいいですね。  
橋 水泳、筋力トレーニング、エアロビクス、フットサル、グラウンドゴルフ、プールは冬季にはアイススケートリンクとなりますし、子どもたちが水と親しめる遊技プールもあります。多彩なスポーツ施設を、幅広い年齢層の方々の健康づくりに役立てて欲しいと思います。また、人々の交流と地域の活性化も目的のひとつ。自然を感じながら、スポーツやレクリエーションを通して人々が楽しく交流できる場になることも願っています。  
鈴木 ここは環境に配慮した、太陽光エネルギーなどの利用も特徴とお聞きしました。  
橋 太陽光発電や、駐車場に芝生を張った「グラスパーキング」など、環境共生型の施設整備も行っていますので、環境学習の場としても活用していただけたらと期待しています。



橋 俊光氏

## ◆兵庫で初めて、PFI方式を導入。

鈴木 ここは兵庫県で初めてPFI方式を導入して整備された施設だそうですね。  
橋 公共施設だからできること、民間だからできること、そのメリットを融合させるのにPFI方式は有効です。設計・建設から、維持管理・運営に至るまで民間のノウハウを存分に活かしてもらいたいというのが導入に踏み切った意図です。  
鈴木 プールに関しては、やはり、いかに多くの人に利用してもらえるかがポイントになるのでしょうか。  
橋 公共が設置するプールである以上、さまざまな需要に対応することが必要です。たとえば、ここはメインプール、サブプールともに可動床とし、メインプールには先進的な泳力解析システム「スイムストロークウォッチャー」を西日本で初めて設置しています。水泳初心者からオリンピック選手まで、小さなお子さんから高齢者まで、幅広い層の方に利用していただける施設になっています。  
鈴木 障害者にも優しい施設ですね。施設全体にユニバーサルデザインが導入されているのも特徴的だと思います。  
橋 国体後は引き続き、第6回障害者スポーツ全国大会の会場にもなるんですよ。また、スイミングスクールのプログラムにも障害者用のクラスが設けられています。専門資格を取得した指導員が指導にあたりますが、障害者クラスでは、どうしても人の手が必要となるため、介添者一名を無料としました。  
鈴木 障害者向けのクラスは、民間のスポーツクラブでは難しい。まさに、公共施設ならではの思いです。サブプールが14コースあることも、実現した要因のひとつじゃないかな。

## ◆自然と人と健康の交流拠点に。

鈴木 「尼崎スポーツの森」の今後について、どういった期待をなさっていますか？  
橋 今回「尼崎の森中央緑地」の第1工区が開園しましたが、引き続き、第2工区、さらには南側の港湾緑地へと事業を実施していきます。さまざまな主体の参画と協働による森づくりが進み、そこが県民の方々をはじめ、企業、大学、研究機関など、多くの方々の交流拠点になることを願っています。  
鈴木 壮大な計画は、まだスタートしたばかり。そこで考えると、ここは単なるスポーツ施設ではないという気もしてきますね。  
橋 そのです。この施設は、ひとつのきっかけです。先日も約1000名が参加した市民ウォークが、「尼崎の森中央緑地」で開催されました。以前なら、尼崎の工場地帯でそういうイベントが開かれるなど想像もできません。ただ、「尼崎スポーツの森」にも、連日、数多くの人が訪れています。そうやって集まった方々に、これから、この地域は変わっていくんだ、将来ここに森が生まれるんだという認識を深めていただけたらと考えています。  
鈴木 自然と人と健康が、交わる場所になっていくわけですね。本当に、楽しみです。





**森の子ども広場**  
子どもたちが自由に安心して遊べるスペースを用意している。



**フィットネス**  
充実マシンとスタジオプログラムでより効果的なエクササイズが可能。  
●マシンジム(約50台)  
●エアロビクススタジオ  
●ロッカールーム、シャワー室



**グラウンドゴルフ**  
年齢を問わず手軽にスポーツを楽しみたい方にぴったり。健康管理や体力増進にも効果的。  
●天然芝、全16ホール  
※ウォーターパーク期間中は閉園。



**アイススケートリンク**  
冬期には、本格的なアイススケートリンクでウィンタースポーツが楽しめる。  
●冬期にメインプール(50m×25m)をアイススケートリンクとして利用。



**フットサルパーク**  
FIFA公認、イタリア製人工芝のフットサルコートで、本格的なゲームが楽しめる。  
●FIFA公認の人工芝3面  
●ピッチサイズ/18m×36m



**サブプール**(はばタンアリーナ25)  
日本最多の14コースを誇る公認プール。担当コーチが丁寧に指導する。  
●25m×35m(コース幅2.5m/全14コース/公認12コース) ●観客席/約320席  
●可動床/0~3mで水深を変化(2分割調整可能)



**リラクゼーションプール・スパプール**  
水泳や水中運動の後に身体をクールダウンできるリラクゼーションプールとスパを配置。



**子供用プール**  
サブプールの施設内には子ども用プールも設置。



**ウォーターパーク(アマラーゴ)**  
スライダーと3種類のプールで、子どもから大人まで楽しめるウォーターパーク。(夏期のみ営業)  
●ウォータースライダー2種類(全長約120mと80m)  
●造波プール ●流れるプール ●子ども用プール

主要施設	
メインプール	国際公認 50m×25m(全10コース/公認8コース) 可動床 4分割(水圧シリンダー方式) 観客席 メインスタンド 1,543席 (内 貴賓席20席・車椅子席18席含む) サブスタンド 460席 アイススケートリンク転換時:リンクサイズ60m×30m
サブプール	国内公認 25m×35m(全14コース/公認12コース) 可動床 2分割(ワイヤー巻き取り方式) 観客席:320席
温浴施設	ジャグジー
フィットネス	トレーニング室・スタジオ室
ウォーターパーク	親水公園(春期・秋期) 屋外プール(夏期:造波プール、流水プール、スライダー等)
フットサル場	専用コート3面
グラウンドゴルフ	2コース(全16ホール)
森の子ども広場	ネット遊具・多年齢対応遊具等を設置した全天候型遊び空間
駐車場	計260台(一般208台、障害者用12台、管理者用40台)

# 尼崎スポーツの森

地域住民の健康増進から  
トップアスリートの育成までを担う  
西日本最大級のスポーツ健康増進施設。



## 特集

プール運営の新潮流・パブリックビジネス最前線



**メインプール**(はばタンアリーナ50)  
西日本初登場スイムストロークウォッチャーで  
トップレベルのトレーニングが可能。  
●50m×25m(コース幅2.5m/全10コース/国際公認8コース)  
●観客席/約2,000席  
●可動床/0~3mで水深を変化(4分割調整可能)  
※冬期にはアイススケートリンクとして利用。



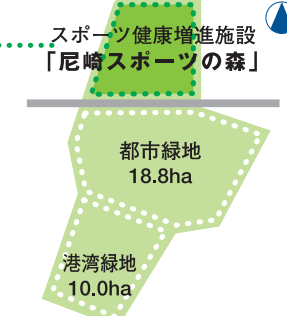
のじきく兵庫国体のマスコット「はばタン」

スポーツ健康増進施設「尼崎スポーツの森」は、兵庫県民の健康増進・スポーツ振興・人々の交流・地域の活性化等を図り、広く県民に親しまれる施設として、兵庫県初のPFI方式(Private Finance Initiative)民間資金・技術経営能力活用方式で県立都市公園(都市緑地)に整備する公園施設。  
「尼崎21世紀の森構想」の中で「健康・文化の森」と位置付けられている「尼崎の森中央緑地」内において、県民の健康増進と兵庫県における水泳競技の振興、さらに人々の交流と地域の活性化を目的に、豊かな自然環境の中で健康・文化活動やレクリエーションを通じて人々が楽しく交流できるスポーツ・健康エリアの中核施設として整備された。  
施設は平成18年10月開催の「のじきく兵庫国体」の競泳・シンクロナイズドスイミング会場として利用される。



**尼崎21世紀の森構想**  
「尼崎21世紀の森構想」は、兵庫県が「森と水と人が共生する環境創造のまち」をテーマとして尼崎臨海地域において環境共生型まちづくりを進めるプロジェクト。自然環境の回復、美しい風景と良好な地域イメージの創出、活力ある都市の再生などを目指して、尼崎21世紀の森づくり協議会が推進母体となり、市民、行政、企業、各種団体などすべての主体の参画と協働により「まちづくり、森づくり」を進めて行く。※尼崎スポーツの森は、2006年のじきく兵庫国体の競泳、シンクロ競技の会場となっている。

尼崎の森中央緑地 28.9ha



施設概要	
敷地面積 (PFI事業区域)	34,978m <sup>2</sup>
建築面積	10,258m <sup>2</sup>
延床面積	16,029m <sup>2</sup>
階数	地下1階、地上3階
高さ	18.7m
構造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造(メイン、サブプール棟屋根部)



大地の目

自然豊かな街に、健康な人々がくらす未来を創る  
自治体と民間の力を結集した新しいまちづくり



尼崎スポーツの森事務局長今田忠三郎氏(右端)と

◆美しい海を取り戻すために。

「尼崎スポーツの森」を訪れ、こは周辺環境も考えて造られた21世紀型のプールであるという思いを強くした。尼崎の工場地帯のイメージと、緑の森のイメージは、当初、にわか結びつかないものだったが、100年という時間をかけるスケール豊かな構想をお聞きするうちに、大きな感銘を受けた。時間をかけなければできないことがある。いつか、ここに豊かな森が広がり、美しい海が再生されるのだと想像するだけで、直感的に素晴らしい構想だと確信することができた。

将来、臨海地区まで計画が進行すれば、ここに人工海浜が出現することになるかもしれない。美しい海は、無条件に人の心に安らぎを与えてくれる。その海で、人々は泳げるようになっていくなかに素敵だらう。そして、いずれ海とプールがつながるような施設ができれば……私の想像は、どんどん膨らんでいく。北京オリンピックでも、オープンウォーターが種目に採用されたように、これからは海での水泳にもっと注目が集まってくるとはならないかと、私は考えている。

◆行政と民間の「ごまかひま」を。

施設の外觀も、緑豊かな環境に溶け込むよう配慮されている。二つのプールの内装も、非常に明るく、見ているだけで元気が出た。プールは、必要なものがきちんと揃っていて、ムダがない。のじぎく兵庫国体は、春・秋同時開催される初めての団体。多くの会場で既存の施設を活用するというのも、これからの国体のあり方を示唆するものだと思うし、また、この施設のムダのなさは、その象徴だと捉えることもできるだろう。地方を訪れていると、時々、なんてこんな場所に、こんな施設がと、観ていて違和感を覚えることがあるが、そういう施設はいずれ経営に行き詰まってしまうことが多い。ただ施設さえ造れば、人は集まるという時代はとうの昔に終わっている。

大切なのは施設を運営するためのソフトの充実。だからこそ、民間の活力を利用して運営に当たることの意義は大きいのである。民間なら当り前なのに、行政ではできないことは多いし、その逆もまた数多くある。民間と行政の「ごまかひま」をするPFI方式は、これからますます浸透していくに違いない。

◆柔軟性こそが、

公共施設には不可欠。

運営の工夫としては、まず営業時間の長さが印象に残っている。フットサルのコートは、深夜2時まで。アイススケートリンクに至っては、24時間受付可能。いずれも、仕事が終わってから練習を考慮してのものだという。スポーツ施設の営業時間にはかねてより疑問を感じていた。とりわけ公共の施設の場合は、平日の利用機会を狭めるような時間設定をしているケースが多い。欧米には、早朝から開いているスポーツクラブがあり、仕事前に気軽に汗を流すことが容易にできる。生活の中に、もっとスポーツを浸透させるには、身近にそれを可能にする施設があることが何より必要なのである。

「尼崎スポーツの森」の周囲は、現在、多くの工場が建ち並んでいる。そこで働く従業員達の福利厚生施設としても活用していただきたい。というお話をうかがった。彼らは、ほとんどが二交代・三交代制で働いているので、施設の営業時間が長ければ対応もしやすいだろう。米国のシリコンバレーにある先進的なIT企業の中には、社屋内に設けたスポーツ施設で、勤務中にも気軽に気分転換を図ることができるとある。ここ「尼崎スポーツの森」でも、そういうワークスタイルを発信することができるとは思えないだろうか、という期待も抱いている。自然の中で、人が集い、みんなの笑顔がはじけている。そんな様子をイメージしながら、施設をあとにした。

Public Business for YAMAHA POOL

ヤマハ発動機プール事業部の管理・運営事業

2006年4月、新たに3施設を管理・運営

東調布公園水泳場

東京都大田区  
指定管理者



住宅地の中の公園施設として、通年利用できる25mプールと子供用プールに加え、夏には50mプール、ウォーター 슬라이ダー、幼児用プールを備える。  
地元根ざした施設運営とサービス提供で、子どもの日には、元オリンピックメダリストや元シニア日本代表コーチらによる水泳教室、アクアビクス、水中運動などの教室、子どもから大人まで楽しめるアクアボウリングなどを開催した。今後も利用者参加型のイベント開催で利用者との対話ある施設運営を目指していく。

浜松市北部水泳場

静岡県浜松市  
指定管理者



浜松市の郊外に位置し、十分な広さと好アクセスを誇る。1年を通じ6コースの25mプールによる水泳や健康増進、夏にウォーター 슬라이ダー、流水プールでのレジャー施設として運営する。  
郊外のプール施設として、アフターファイブの水泳利用が目立ち、定期的に利用する常連も多い。04年から指定管理者として運営する。浜北温水プール「グリーンアクア」に比較的近いため、両施設連動のイベント・キャンペーン開催なども視野に、一般利用者へのプログラム提供など常に新しい取り組みを展開して行く。

磐田南温水プール

静岡県磐田市

受託形式



ヤマハ発動機の本社所在地である磐田市の温水プール施設。25mプール、流水プール、子ども幼児用プール、スパプールとトレーニング室を完備している。  
これまでのスタッフ教育と運営レギュレーションを再確認し、住民へ向けた新サービス企画・提供を磐田市との関係によりつくり出したい考え。その具体的方法として、すでに他の施設で実施している利用者個人のごとの運動プログラム提供を行っている。今後も年間を通じて利用者の増加を目指し、経営の安定を図りたいと考えた。

受託形式

03年10月 掛川さんりーな



ヤマハ発動機による管理運営事業施設の1号。体育館を中心とした公共スポーツ施設で、現在、掛川市のトランポリンの振興にも使われる。  
ヤマハ発動機は、温水プールとトレーニングジムを担当する。

指定管理者

04年10月 グリーンアクア



旧浜北市の温水プール施設としてオープンし、屋内プールは主に25m、歩行用、リラクゼーションと子ども用に分けられる。現在は浜松市北部水泳場との連携で浜松市民に買いた健康増進メニュー促進を計画している。

公設民営方式

05年7月 デカパトス



震災復興10年目の05年7月、神戸市との公設民営方式でオープンしたスポーツコンプレックス。通年利用できるフットサルコートとスケートパーク、そして夏季限定ウォーターパークから構成される。プール来場者はオープン1年目で関西地区の22万人を達成した。

PFI方式

07年10月 豊橋市資源化センター



「豊橋市資源化センター」余熱利用センター施設整備・運営事業として4月に着工。07年10月のオープン予定。  
資源化センターの余熱を利用し温水プールと温浴施設を中心とした施設を整備運営していく。豊橋市民の省資源・省エネルギー意識の向上にも寄与したいと考えている。



# YAMAHA Information



宮下充正先生の講演

**ヤマハ発動機プレスセミナー  
尼崎スポーツの森で開催される**

ヤマハ発動機株式会社では、社内各事業の活動とその社会的役割を報道関係者に説明し理解を深めてもらう場として「ヤマハ発動機プレスセミナー」を年一回開催しています。

今年は、プール事業の取り組みとして、プールを中心とした健康増進施設の意義と、その施設の管理運営事業についての説明を6月15日「尼崎スポーツの森」(兵庫県尼崎市)で開催しました。

これまでもプール事業としてプレスセミナーは3回の実績がありますが、西日本での開催はヤマハ発動機全体を見ても初めてのものです。

テレビ、新聞、専門誌など約20名の報道関係者を集めたセミナーはテーマを「みんなに喜ばれるプール」と、その付帯施設として、本誌にもご協力をいただいている放送大学教授の宮下充正先生による講演、プール事業部の



4月1日オープンしたスポーツクラブHAKUWA (広島県東広島市)

**進化するプール技術  
各地の施設にいろいろなアイデア**

FRRP素材の特徴により、錆や腐食に強く、耐候性、耐震性、防水性に優れたFRRP製プール。加えて、独自の製造技術による成形性、機能、安全性と「ニット」による現場作業の効率化もヤマハFRRPプールの魅力です。

こうした、基本的性能に加え、快適なプール環境を提供するため、ヤマハ発動機のプールテクノロジーは常に進化をしています。

**■プール利用未経験者にも使いやすい機能**

広島県東広島市のスポーツクラブHAKUWAでは、FRRP表面に従来より細かい目地のセラミックタイルを使用しています。より美しいプール環境の提供を目的にラインナップするプラスセラミックは、これまで10センチ×20センチの長方形タイルを使用していました。今回使用されたタイルは、3センチ×3センチと細か

く、美しさはそのままに、水中ウォーキング、アクアビクスの際の底面の滑りにくさを追求した仕様となっています。

**■行き届いた気配りで歩先のプール施設を**

神奈川県横浜市にオープンしたティップネス二俣川の25mプールでは、プールの入離水時やとっさの時、プールサイドの立ち上がり部分に滑りにくく、つかまりやすいよう、指かけ用の溝を設けています。また入水階段も突起部の少ない形状で、使いやすく安全なデザインを採用しました。

また新型のグレーチングを使用し、クリーニング時にロール状にでき、コーナー部分もメッシュのままのフィニッシュを可能にしています。

30年を越える実績、世界最高水準の基本性能を礎に、ヤマハFRRPプールはこれからも使いやすい、安全性を追求し進化し続けていきます。



プール事業部から、事業概要と解析システムの説明

矢倉裕による事業と解析システムなどの説明が行われました。終了後は施設見学も開催しました。

宮下充正先生の講演では、現在の社会における体力と健康面での課題を、世代や性別毎の検証データとともに説明いただき、こうした課題に対する温水プールの効果と、尼崎スポーツの森に設置された計測システム「スライムストロークウォッチャー」と「オプティカルスライドウォッチャー」の有効な活用を説明いただきました。宮下先生は「健康になることで地域の人々の生活の質を向上し、豊かな人生を送る『心』を養うためにもこうした施設運営は大切」と説明されました。

また、こうした説明を受け、矢倉からは「これから施設の管理運営事業にはさらに力を注ぎ、プール事業部の新しい核業務として、解析技術のさらなる研究と、各地域の人々と実績を重ねていきたい」と話しました。



HAKUWAの25mプールに採用された新型のプラスセラミック



埼玉から出場のチーム「あじさい」の演技

**障害者シンクロフェスティバル  
15年の功績、世界への一歩**

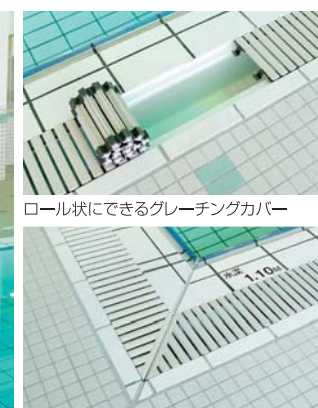
全国障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバルが今年も京都市の京都障害者スポーツセンターで開催されました。障害者のスポーツ参加と、自発的な運動意欲を向上させ、ひいては社会参加と交流の機会づくりを目的に開催されるこのフェスティバルは今年、15回目の記念大会として開催されました。

5月13日・14日の日程で14都道府県、42チーム330名が参加、15年目の節目として全国に定着をみせはじめているこの大会の輪を海外に広げるべく、カナダで障害を持ちながら通常の競技会に参加を続けているクリスティン・ヘイスさんを招きました。

13日は開会式とシンポジウムや講習会が行われ、14日に演技を開催し、ヘイスさんも口で出場しました。



握りやすく突起部の無いハンドル



グレーチングカバーのコーナー部



照明と窓からの陽光が美しいティップネス二俣川(神奈川県横浜市)





# 「水夢人」 Vol.10

Relay talk

## 願いと、思いをシンクロさせて

財団法人日本水泳連盟理事、シンクロ委員長  
金子 正子 氏

PROFILE：金子 正子（かねこ まさこ）  
1979年よりシンクロナイズドスイミング・ナショナルコーチを務める。同競技がオリンピック正式種目となった、1984年ロサンゼルス五輪から監督、コーチを歴任。2000年シドニー五輪、2004年アテネ五輪では、日本選手団の中で女性唯一の本部役員として活躍。現在も日本シンクロの拡大と強化に努める。

### 常に進化を続ける競技 シンクロナイズドスイミング

シンクロナイズドスイミングの魅力は、演技の芸術性と鍛えられた人間の織り成す技の、美しさを追求する点にあると思います。人と人との音楽、音楽と光と水、それら全てが「シンクロ」する美しさは、長年この競技に携わってきた中で、終わりも妥協もない、とても奥深いものだと感じています。

1979年にシンクロ強化部長になった当時、シンクロの芸術性は水中のパレリーナ、あるいは人魚のように水中で舞う美しさに基準がありました。それから25年経った現在、その基準にはスピード、パワー、高さ、存在感、躍動感など様々なスポーツ的要素が求められるています。

オリンピックの正式種目となった84年のロサンゼルス大会からは、必然的に4年という間隔で変化しています。4年毎ということはその間は3年しかありませんから、今年はその

同じ目標に向かって  
思いをシンクロさせる

小学2年生で水泳を、高校生の頃にシンクロを始め、東京シンクロの選手として7年、その後は指導者の道に入りました。

指導の手法は人それぞれですが、私は常に強い日本チームでありたいというこだわりを持ち、指導を続けてきました。

そして教えるということとは、上手にしなければいけないということ。私は競技においても私生活においても、選手たちに信頼される

の時間枠でみると中間年あたり、一番新しい日本シンクロのイメージを決め、その姿を磨きにかける非常に重要な時期といえます。

### 27年ぶりの日本開催 シンクロワールドカップ2006

その重要な時期である今年9月、シンクロワールドカップ2006が、横浜で開催されます。東京開催の第1回大会から数えること11回目、27年ぶりの日本開催。アテネ五輪以降世代交代した若き日本シンクロチームが、初めて参加するワールドカップがホームゲームとなるわけですから、国内の期待を浴びた中で大きなチャレンジになります。

しかも、これまで8強あるいは12強の各国参加だった大会が、今大会から全世界からの出場が可能となり、すでに30ヶ国以上が参加を表明しています。オリンピックや世界選手権の種目別の争いに加え、国別対抗の総合杯が勝負になります。

私達日本チームも、昨年は新生チーム1年目ということで多少荒削りでも全力で戦うことが優先されました。今年は、さらに進化した完成度の高いチームをつくり、北京五輪につなげたいと思います。



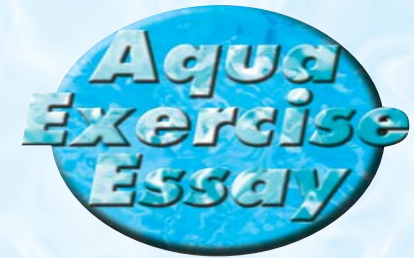
5月20日尼崎スポーツの森で行われた尼崎中央緑地公園の「森びらき」に出演したシンクロ日本代表チーム。

指導者でありたいと思っています。

選手は日本代表になるほど上達し、うまくなりたいと思えば思うほど、自らの力の足りなさに気付く、激しい練習では怪我や病気などアクシデントが起こる度に自信を失い、自らを否定してしまふことがあります。私はそんな彼女たちに常に適切なアドバイスを示し、最良の道へ導く指導者でありたいと常に考えています。

ロシアを始めとする各国の強豪チームに勝つためには、しっかりと自国の力を見極めること、選手たちと目的と目標を共有して闘つこと、そして勝つことへの執念と執着心、闘心の強さが大切だと思います。

シンクロのすばらしさは、言葉では言い表せない程深いものです。水深設定が可能な多目的のプール施設がたくさんできて、子どもから高齢者まで多くの方が心と身体の健康のために、シンクロを楽しんでもらえる環境が増えること、きっと素敵だと思っていますね。



## 水中運動核心論 Teaching 10

presented by 宮下 充正

### 世界の水泳プール さまざまな工夫の変遷 《その2》 1970年代から1990年代

過去40年近くの間、外国で開催された学会へ参加したとき、あるいは、日本代表水泳選手団の遠征に同行したとき、いろいろなプールを見る機会があったので前号に引き続き紹介したい。

#### スウェーデン：実験用流れるプール

1970年代から1980年代の世界のスポーツ科学をリードしていたのは、スウェーデンのストックホルムにある大学であった。この大学に実験用の流れるプール（スイム・ミルと呼ばれる）が出来た。このプールを利用して、泳法の違い、水泳スピードの違い、そして、泳ぎの巧みさの違いと酸素摂取量が測定され、水泳の生理学的研究が飛躍的に発展した。しかし、このスイム・ミルは、流水スピードが1.5m/秒を越えると波が大きくなるという欠点があった。

話は変わるが、当時日本にはスイム・ミルはなかった。ところが、造船技術が進んでいた日本には、小型の模型船の抵抗を測定するための実験水槽があった。その中で、人が泳げる大きさの水槽が北海道函館にあり、そこを借りることができた。もちろん加熱装置が無かったが、夏なら何とか使えそうだということを利用して使った。

ちよつと来日していたアメリカの身長2m近い2名の男子選手（世界記録保持者）と身長低い日本選手たちに協力してもらって、流速とからだに受ける水抵抗の測定を行った。工業試験用のプールであったため、消波機能はともやられていて、流水スピードが20m/秒を越えても、さざ波程度しか発生しなかった。結果は、身長1.5mと2.0mの選手の間、同じスピードなら水の抵抗に差が見られず、からだの大きさよりも、姿勢のとり方の巧みさ



スウェーデンのプール。レグレスの練習。

#### アメリカ、カナダ：カナリーの練習もできるプール

アメリカ水泳連盟は、コロラド州コロラドスプリングスにスイム・ミルを設置した「国際水中運動研究センター」を設立した。そこには水中窓があり、泳法の分析も可能で、生理学的面から力学的面までさまざまな研究成果が報告されている。

その後、カナダアルバータ州のカリガリー大学のプールを見た。ここにも屋内温水50mプールがあり、その半分が同じように水が湧き上がり、体育専攻の学生にカナリーの講習がなされていた。

#### アメリカ：住宅開発とプール

先に紹介したように、アメリカの水泳はもともカリフォルニア州が盛んであった。その後、東部へと広がり広がっていった印象がある。テキサス州ヒューストンを訪問したとき、オイル景気で拡大しつつあった市に、大規模な住宅団地の開発が進められていた。

その一つを訪れた。開発に当たるデベロッパーは、敷地の中心部分にプールなどの運動施設を、また広大な敷地の周囲にジョギング・コースを建設する。それらの施設を売りに広告パンフレットを作成し、分譲するという方法をとっていた。年間を通して暑いところなので、冷却装置のある屋外50mプール、飛込み用プール、そして、屋内25mプールがあった。これら運動施設の建設費は、アメリカ連邦政府が補助するということであった。



アメリカ・デベロッパーの造る50mプール

同じように、照明つき屋外温水50mプールなど運動施設の充実した住宅地を、カリフォルニア州でも見たことがあった。余裕が無かったのであろう。

Profile  
宮下 充正  
財団法人日本水泳連盟理事  
放送大学教授・東京大学名誉教授  
「子どものスポーツと才能教育」02（大修館書店）  
「中高年のためのフィットネス・サイエンス」04（大月書店）